

苦戦が続き、新政権の支援策に期待

12月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

ガソリン価格がやや下落したが、依然、原材料高や人手不足による人件費高騰で収益環境の悪化や消費増税前の駆け込み需要の反動減が続く。また、寒波で商店街は客足が遠のき、生花や野菜の出荷量も減少している。年末需要に悪化傾向が見られ、安倍新政権が打ち出す中小企業支援策に期待している。

製造業	食料品		パンはインフルエンザによる学級閉鎖の影響で、学校給食向けの売上が悪化している。菓子は昨年並みに推移している。生・乾麺とも苦戦が続く中、年越しそばの動きは例年並みである。酒造は純米酒、吟醸酒は昨年並みに推移、一方、本醸造酒、普通酒は落ち込む。
	繊維・同製品		婦人服地は2月の端境期まで昨年同様に推移する見通しである。輸出向けは商談会等への積極的な参加を検討している。伊勢崎織物は原材料高が続き採算面は厳しい状況の中、京都の「移動販売会」では動きが見られたが先行き不透明である。繊維製品は、業績悪化による組合脱退が数社見られ厳しい状態である。
	窯業・土石製品		生コンの出荷量は、前橋、高崎で大型物件がなく全体的に減少している。コンクリートブロックは、秋口から需要が減少し、今後厳しさが増す予感である。コンクリート製品は、前年並みの水準に近づきつつある。碎石は、地域差が見られるが、販売価格は上昇傾向で在庫数量は減少し好転基調である。
	機械・金属		鍍金は、電気料金等の上昇に苦しむ中、業況は「良好」「悪化」が二分している。輸出製品は好調で、生産量の増加が見られるが製造経費の上昇で収益状況の改善はみられない。富士重工関連は販売好調を背景に操業度が上昇するも、2年後の北米への生産移転を考えると楽観視できない状況である。
	その他の製造業		製材は製品単価下落、仕入単価上昇の中、原料不足で設備操業度が低下している。印刷業は売上減少の中、原材料値上げで収益は悪化傾向、受注の不安定さや企業間格差が見られる。ゴム製品の受注は企業間でまだ模様である。紙加工品は受注量が悪化し、新規受注については競争が激化している。
非製造業	卸売業		食品関連は昨年並みに推移、繊維関連は依然低調、金型用鋼材の受注が減少するなど円安による影響を懸念している。農産物卸は前年並みに推移したが、みかんが品薄状態でやや高めである。水産物卸は、年末商戦が期待外れで低調である。
	小売業		家電小売は駆け込み需要の反動減で売上が悪化している。中古車オークションは落札価格が僅かに上昇している。ガソリン小売は、大幅な原油安で販売価格が前月比12～13円/ℓ程度下落している。商店街は寒波で客足が悪く、歳末セールは盛り上りに欠け、お歳暮の売上も悪化している。生花店は寒波で品薄状態が続く苦戦している。
	サービス業		温泉旅館は、雪の悪影響は少なく例年の入込である。不動産取引業は、太田市域が富士重工関連の業績向上に伴い取引良好、小規模開発が積極的に行われ新築住宅の建設が目立っている。建物設計業は、改正建築士法施行で経営安定化や後継者の育成強化を期待している。自動車整備は整備需要が低下し売上が減少している。
	建設業		建築工事は新政権の経済対策に伴い、公共工事予算削減を不安視している。電気工事業は作業員不足が続く中、求人に苦慮している。塗装工事業は、職人不足等の要因で工期延長が発生、一部で元請に対して経費増加交渉を行う事業所が散見される。鉄構業は、仕事量に一服感がみられる。
	運輸業		輸出関連は好調だが全体的に荷動きは低調、消費増税前の駆け込み需要の反動減が続く。日配品輸送では運転手不足が散見される。軽油価格は前月に続き値下がり傾向で適正価格に近づいた。小口輸送は、前月に続き、自動車部品・家電関連のチャーター依頼で売上が増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数（季節調整値） 114.3（前月比+3.8%）「県統計課・11月」
- 販売電力量 118,128kWh（前年同月比▲4.5%）「東電群馬支店・11月」
- 住宅着工戸数 1,168戸（前年同月比▲23.3%）「県建築住宅課・11月」

- 求人倍率（季節調整値） 新規1.80倍・有効1.16倍「群馬労働局・11月」
- 大型小売店販売額 223億円（前年同月比+1.1%）「経済産業省・11月」
- 消費者物価指数（全国） 103.2（前年同月比+2.4%）「総務省統計局・11月」
（鉱工業生産指数・消費者物価指数は22年＝100とした指数）